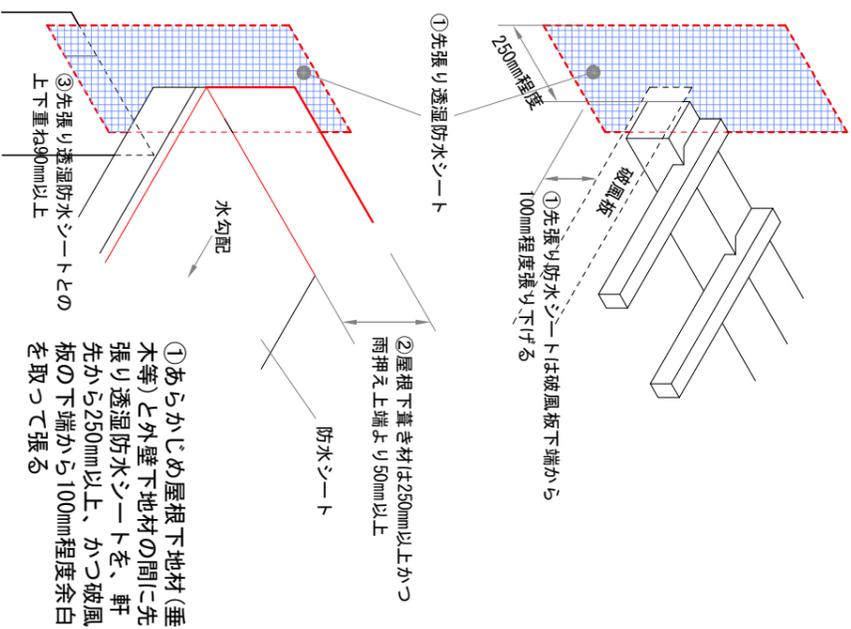
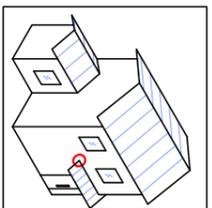


雨仕舞 特記仕様書 (2)

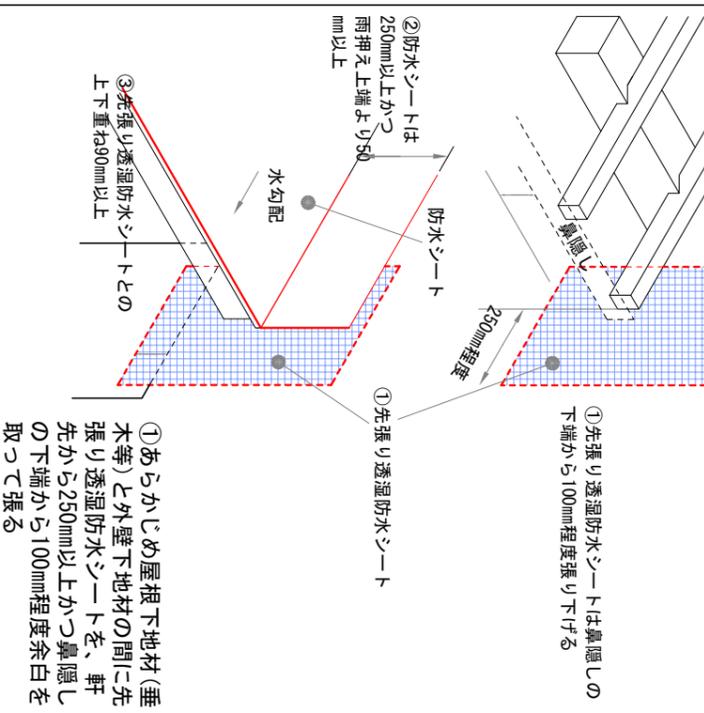
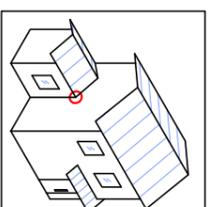
■ 下屋の施工

□ 外壁と下屋の水上端部納まり



- ①あらかじめ屋根下地材(垂木等)と外壁下地材の間に先張り透湿防水シートを、軒先から250mm以上、かつ破風板の下端から100mm程度余白を取って張る
- ②台風時に吹き付け風で入り込んだ雨水を面材に当てないため、屋根面と壁面取り合い部の防水シートは、250mm以上かつ雨押え上端より50mm以上張り上げる
- ③先張り透湿防水シートの下に上下の重ねが90mm以上になるように防水紙を差し込む

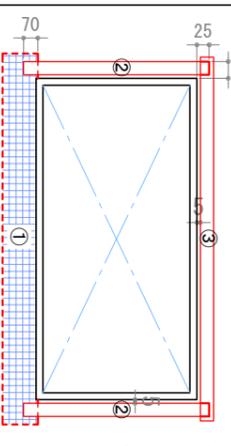
□ 外壁と下屋の水下端部納まり



- ②台風時に吹き付け風で入り込んだ雨水を面材に当てないため、屋根面と壁面取り合い部の防水シートは、250mm以上かつ雨押え上端より50mm以上張り上げる
- ③先張り透湿防水シートの下に上下の重ねが90mm以上になるように透湿防水シートを差し込む

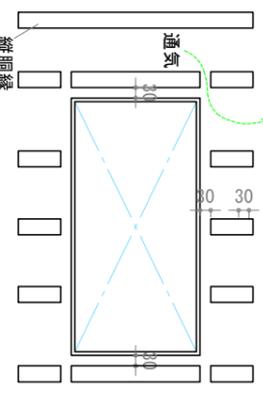
■ 開口部廻りの施工

□ 防水テープの施工



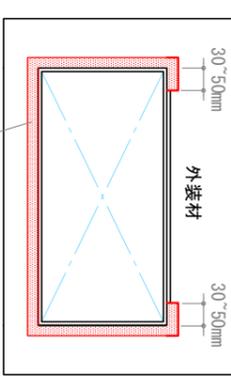
縦枠リブランス: 上枠に滞留した雨水が縦枠側に流下する際に透湿防水シートを濡らさない為に通水路として設ける
上枠リブランス: 上枠に滞留した雨水を防水テープや透湿防水シートが吸い上げ、浸入することを防ぐ為設ける

□ 開口部まわりの胴縁施工



通気層は厚さ15mm以上とする
開口部まわり胴縁は通気を確保するため、サイリ釘打ちパイプを外して留め付ける
サイリまわりの縦胴縁は通気を確保するため、30mm以上の隙間を設ける

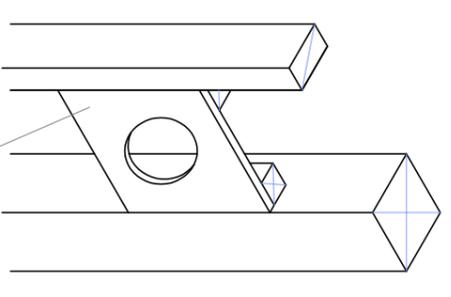
□ コーキング施工



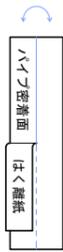
開口部のサイズが大きい場合は、経年と共に部材の真ん中が垂れる可能性がある為、上記のように雨水を逃がす仕組みを取り入れる
逆に、開口部のサイズが小さい場合は、部材が垂れる心配もなく、孔があることで雨水浸入のリスクが増えるため、塞ぐ

外装材と開口部周りの取り合い部は、上部(左記の図示部を除く)以外は雨水浸入を防ぐためにコーキングを施す

■ 配管貫通部の施工



- ①テープ圧着のため、貫通部まわりには下地を設けること。
- ② 1) 背割りに沿って、はく離紙が外側になるように折り曲げる。
- 2) パイプ面に密着する側のはく離をはがす



③雨水浸入の隙間を生まないために、貫通部の下側からパイプ面に貼り始める。
防水テープを左右均等に、背割り部をパイプと透湿防水シートの取り合い中央に添えながら、上側に向かって少しずつ伸ばしながら貼る。

④透湿防水シート側に貼るはく離紙を取り除き、しわが入らないように指先を使って透湿防水テープを伸ばす際は、幅方向と長さ方向に追従させる。
※その際、伸ばしすぎには注意する

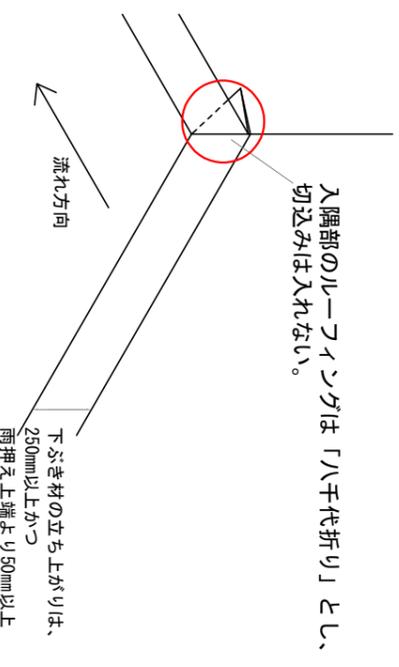
⑤貼り付けた部分は、必ず圧着する。

⑥ ②のとおりテープを用意する。
テープ幅程の重ねを設けるように、下側のテープ(③)の上から貼り始める。

⑦貼り終わりも必ず下側の防水テープにテープ幅程度重ねがでるよう貼る。
⑧貼り付けた部分は、必ず圧着する。

■ 一次防水層

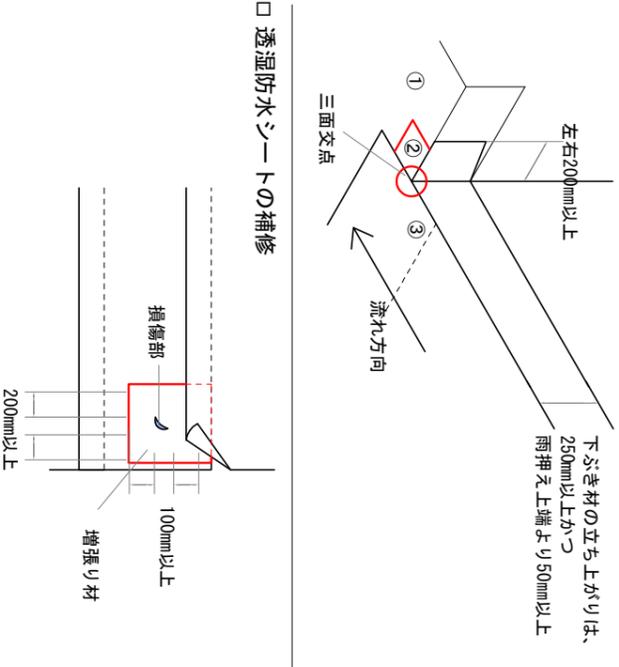
□ 入隅部



- ①のルーフィングを
- ②片面粘着伸張防水テープで密着させる
- ③水上の下ぶき材を出隅から重ねが200mm以上になるようにカットし、重ねる

※防水テープは、縮み展りの大きい「伸縮タイプ」は使用しない。

□ 透湿防水シートの補修



※原則、張り直しをする

補修がやむを得ない場合は、下ぶき材を増張りする
増張り材は、損傷部から左右とも200mm以上、上下に100mm以上の余裕をもつ。
増張り材は上下重ね部に挿し込み。タッカーで留める。